



コツコツ とこどん

うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

大仙市立太田中学校
令和4年11月11日
NO. 97



大仙市立太田中学校 第61期生(翠陽学年)

入試説明会



志望校を決め 受検するのは自分だ

志望校発見！ 3年進路PTA

中学校を卒業してからの進路を考える時、現在秋田県には60以上の進学先があります。県外の進学先を加えると数限りなくなります。その全てを知ることとは不可能でしょう。

今年から前期選抜がなくなり、特色選抜という新たな選抜方法と一般選抜が同日に行われることとなり、高校入試制度が大きく変わります。短縮・縮小の中で3年生は、夏休みの体験入学に参加したり進学先について調べたりしています。また、実際に進学した兄姉や先輩から話を聞くなどして、情報を得ている人もいます。しかし、まだまだ目標が漠然としている人、現実として受け止められない人、悩んでいる人も見受けられます。でも、時は止まってはくれません。公立高等学校選抜入試の入学願書を提出まで3ヶ月弱となってきました。長いようでアツという間に過ぎてしまう時間です。

そこで、昨日11月10日(水)に3年生、3年生保護者を対象に、今年から変わった秋田県内の高校の入試要項、進路決定までの日程についての理解を深め、進路目標をより明確にし、意欲をさらに高めるために進路PTAを開催しました。

人それぞれ進学先を定める時期は異なりますが、進学先を決めるのは早いに超したことはありません。その理由の一つとして、行きたい高校が定まっ

た方がモチベーションが上がるということが挙げられます。人は目標なく努力を続けるということはかなり難しいことだと思います。憧れの高校という明確な目標があれば、そこに行くために勉強をがんばろうと思う気持ちがきっと強くなることでしょ。

「受検生」という言葉は、一般的には「中学3年生」になったらというようなイメージがありますが、中3からみんな一斉に「受検生」になるわけではありません。いつから受検勉強を本格的に始めるかについての決まりなどなく、スタートが早ければ早いほど有利になるはずですが、中2からでも中1からでも、志望校が決まってい、そこに照準を合わせて勉強をスタートさせているのであれば、それはもう実質的に「受検生」です。逆にいえば、志望校がいつまでたっても決まらずに、どこに照準を合わせて勉強すればいいかが分かっていない人は、中3であっても「受検生」にはなっていないのです。まさに、

『受検勉強にフライングなし 受検勉強にスピード違反なし』なのです。

受検をマラソンに例える人もいますが、マラソンで上位に入賞するのは、ほとんどの場合、先頭集団の人たちです。つまり、スタートで出遅れた人があとから逆転するのは、本当に難しいということです。

志望校が決まれば、あとはその高校に照準を合わせた勉強を、ひたすらやっただけなのです。

その意味で、3年生のみならず、2年生・1年生にも、保護者の皆様にも、少しでも早く進路目標を定め、スタートを切ってもらいたいと願っています。